

熊本・大分地震 被災教会会堂等再建支援委員会 現地視察

[熊本チーム]

6月26日(月)から27日(火)、熊本地区内の被災8教会中7教会を日下部九州教区副議長同行のもと、川島牧師、難波牧師に案内して頂き訪問した。以下に視察報告を記す。

尚、八代教会については稲松委員からの報告を付記する。(補修概算費用は当初の金額)

委員 横山良樹 田中かおる

現地同行 日下部遣志牧師(九州教区副議長)

現地案内 川島直道牧師(錦ヶ丘教会)、難波信義牧師(熊本草葉町教会)

1. 隈府教会(二種) 代務者: 川島直道牧師、現住: 6名、床面積112㎡

被災度区分「中破」、補修費用概算: 1500万円

川島牧師が資料を用いて説明。2017年2月に総会で建て替えを決議、すでに図面完成。牧師館を作らず、会堂のみ再建。設計業者、施工業者も決定済み。資金計画は概算より多く1600万円。内訳は自己資金100万円、内部献金100万円、外部献金1400万円(震災募金配分1300万円、教団内献金100万円)。後は、敷地内のどこに会堂を建築するかを決めるだけであるが、教区に基本財産除却と取得の書類申請をする必要があることを助言した。



2. 合志豊岡伝道所(伝道所) 兼務: 川島直道牧師、現住: 24名、床面積169㎡

被災度区分「軽微」、補修費用概算: 100万円

川島牧師が資料を用いて説明。電線引き込み部分の損傷のみで5万円で修理可能とのこと。教団には支援を要請せず、伝道所内で処理すること。電線引き込み部分は漏電等が心配されるので、早急に修繕が必要であると見受けた。



3. 武蔵ヶ丘教会（二種） 主任：神田道隆牧師、現住：11名、床面積290㎡
被災区分「軽微」、補修費用概算：500万円

主任は、現在本拠は長崎で週末のみ在熊本。牧師不在で会堂を外から見たのみ。見積りも未実施（川島牧師が業者は紹介済み）。自己資金がないので教団にお願いする方向とのことだが詳細不詳。



4. 熊本草葉町教会（一種） 主任：難波信義牧師、現住：118名、床面積552㎡

被災区分：会堂「少破」、牧師館「軽微」、補修費用概算：500万円

難波牧師が口頭で説明、約1カ月かかって、先日会堂補修完了。残りはパイプオルガンの調律と補修のみ。全国から170万円ほど献金があった。教会員に建築関係の人がおり、採算度外視で請け負ってくれて、補修費請求は253万円。外部献金170万円のうち、食器・レール等に20～30万円を使い、140～150万円を補修請求に充当。残りを教団にお願いしたいとのこと。ただしこの金額は草葉町教会で仮払い可能である。



5. 在日大韓基督教会熊本教会 主任：牧師、床面積187㎡

被災区分 会堂「小破」、牧師館「小破」、補修費用概算：500万円
金牧師が口頭で説明。礼拝出席は5～8名程度。会堂は、壁、柱の割れが目視できる。牧師館は、会堂との接触部分にずれが生じ、建物全体が傾いていることを確認。基礎部分、外壁、内壁にひび割れあり。ただし、現在、教会として、補修なのか再建なのかの意志決定が出来ない状態。建て替えとなると500万円を超えることになる。

尚、金牧師は「エルピスクまもと」のセンター長を担っておられる。



6. 熊本城東教会(2種) 主任:中村英之牧師、担任:中村栄美子牧師、床面積115㎡

現住:40名、被災区分 会堂「小破」 牧師館「中破」 補修費用概算:400万円
中村牧師が口頭で説明。会堂はひび割れの補修で対応できる。牧師館も古いがしっかりしており、屋根を変えさえすれば持つと診断された。屋根は瓦からスレートに変える予定。ただ、早く修理しないと、今後、雨漏りなどによる腐食が懸念される。自己資金は外部献金(ホーリネスの群れの諸教会、個人からの支援)が150万円ほどあるので、足りない分を教団に申請したい。ただし、業者は決まっている(従来、城東教会のメンテナンスを担当している業者)が、未だに見積もりが出ていない(順番待ち)ので、実際の金額が現段階では不明である。



7. 錦ヶ丘教会(1種) 主任:川島直道牧師、現住:91名、床面積482㎡

会堂:外壁・内壁のひびあり、塀の修理は済み、塔は撤去済み、
空調設備や備品の補修は済み、牧師館 居住可能、塔の再建概算:1,000万円
川島牧師が資料を用いて説明。全国から錦ヶ丘教会あてに約750万円献金があり、これによって塀の修理、塔の撤去、空調修理、洗礼盤修理、教会書棚設置、パイプオルガン修理を行った(合計:577万円)。塔の再建費用が約1000万円であるが、資金計画としては、全国連合長老会・改革長老教会協議会より約670万円をいただけることが決まっているので、不足額を教団に申請したいとのこと。





7' 熊本市役所訪問



大韓基督教会熊本
元熊本バンド 拠点



8. 八代教会(1種)主任:中山実牧師、現住38名、会堂竣工1933年、床面積:会堂191m²、震度5強、補修費用概算3,000万円

2017年4月10日、稲松委員が私用で九州に赴いた機会に単独で視察。中山実牧師の他教会役員5名が同席してくださいました。荒天のため会堂内部のみ建物の損傷部位を隠した。地盤沈下により建物の躯体に歪みが生じたと推され、内壁の四方に亀裂が見られ、講壇横の扉は開閉時に床と擦れるようになっていた。現会堂は1933年に火災により消失したとき教会員が力を合わせて半年で再建した建物であり、八代市からも歴史的建造物として「八代たても

の」に指定され公道に面して市による案内板が設置されている。市民も含めて愛着のある会堂であり、教会としても現会堂を今後も長く使用できるよう、必要な補修をすることを望んでいる。そのために必要な詳しい建物の検査は今後予定されており、そのための見積額もそれによって明らかになるとのことであった。

[大分チーム]

6月25日（月）から26日（火）、大分地区内の被災5教会を梅崎浩二九州教区議長、庄司宜充別府教会牧師（運転）、工藤俊一大分地区委員長に同行案内していただいた。大分地区内の被災5教会の視察報告を記す。（補修費用概算は、当初の金額）

委員 高橋潤、望月克仁、稲松義人

現地案内 梅崎浩二議長、庄司宜充牧師（運転）、工藤俊一牧師（二日目）

1 竹田教会 主任:尾崎明、現住14名、会堂竣工1989年、床面積153㎡、 震度4、補修完了(補修費用概算200万円)

尾崎明牧師に迎えられ被災状況の説明を受けた。ヴォーリス診断の被災度区分では「軽微」であったが、礼拝堂（築27年）の土台部分の高さ5メートルの石垣強度を案じていたが概ね問題ないとの事であった。その後、礼拝堂の外壁部分の必要最小限の修復（200万円）を完了し喜びを分かち合った。付属施設小羊保育園はほぼ影響なしで対象外としている。



2 別府不老町 主任:齋藤真行、現住43名、会堂竣工不明、床面積325㎡、 震度5弱、新築計画中（補修費用概算2,500万円）

齋藤真行牧師と役員2名に迎えられ、工藤牧師が合流し被災した礼拝堂を見学した。会堂の新築を決定し、現在は隣接地に6年前に建てた集会室で礼拝を守っている。被災度区分は「小破」であったが築80年以上の会堂に入った無数のひび割れの修復を断念し、実施設計、建築確認申請まで進んでいるが予算高騰のため建築契約（総工費6,600万円）直前で協議中。

この10年間隣接地150坪を購入、牧師館集会室建築が続き、返済金300万円が残っている中で、約30名の教会員に会堂建築の自己負担費用（約3,000万円）が重くのしかかっているため、資金計画に不安を覚えている。



3 別府教会 主任:庄司宣充、現住23名、会堂竣工1956年、床面積会堂176㎡
 牧師館98㎡、震度5弱、 待機中(補修費用概算1,500万円)

庄司宜允牧師より被災状況の説明を受けた。被災度区分会堂「小破」であり、牧師館のクーラー落下、天上破損、会堂屋根の破損や外壁のひび割れ、礼拝堂内の照明破損、床板の軋み、窓枠強度、雨漏りについて説明を受けた。二階三階部分については、教会の判断で補修対象外と考えているとのこと。教会総会では、修復準備は進めつつも、熊本地区・大分地区の他の被災教会の再建を優先しようということで一致している。大工の来年8月頃の資材価格低下のアドバイスをも参考として、業者全被災教会の最後の余力で修復を進めようと話し合っている。



4 別府野口教会 主任:吉武二郎牧師、現住27名、会堂竣工1925年、床面積254㎡、震度5弱、
 補修完了(補修費用概算1,500万円)

吉武二郎牧師夫妻に迎えられ、被災状況の説明を受けた。旧聖公会の築92年になる木造の

会堂・牧師館一体の建物は、特に牧師館が大きな被害を受けた。被災度区分「小破」であるが、約309万円で補修工事（5月8日開始）を完了し、喜びを分かち合った。



5 由布院教会 主任：黒田恭介牧師、現住24名、会堂竣工不明、床面積111㎡、震度5強、新築工事中（補修費用概算4,000万円）

黒田恭介牧師に迎えられ、被災状況の説明を受けた。鉄筋コンクリートの礼拝堂と木造の牧師館が一体となった建物が被災し、付帯施設の保育園舎で礼拝を守っている。すでに被災した会堂牧師館は解体されていたため被災状況の目視は出来なかった。5月26日起工式を行い、今年のクリスマス礼拝は新会堂で守ることを待望している。9月末第二回、11月末最終の支払いについて、協力が必要であることを確認した。今回の新築計画に牧師館を入れられなかったことが課題として残った。



以上